

藤田記念博物館リニューアルオープン記念
春の企画展

ゆう

き

そ

めい

結城素明

— 花鳥画の世界 —

2021

4月15日(木)～5月5日(水)

開館時間：10時～16時 休館日：4月19・20・26・27・30日

入館料：一般…… 500円
高校生…… 300円
(小中学生無料)





ゆう き そ めい
結城素明 (1875~1957)

結城素明は、明治8年(1875)に東京本所の酒商池田屋を営む森田家の次男として生まれる。本名の貞松や素明のネーミングは勝海舟によるものといわれている。明治24年(1891)に岡倉天心の紹介で日本画家川端玉章に入門し、翌年東京美術学校(現東京芸大)日本画科に入学し、明治30年(1897)に卒業するも同校西洋画科に再入学(中退)。

明治33年(1900)には平福百穂などと絵画団体「无声会」を結成し、同37年には東京美術学校助教授(大正2年に教授)となる。同年に醸造業を営む白河藤田家で働いていた照子と素明が結婚したことにより、藤田家との交友が始まる。明治40年(1907)には第1回文展に「無花果」(いちじく)が入選、同44年には「嶺」(さえずり)が第5回文展に入選、翌45年の二科展に「甲たる馬」が入選するなど活躍、大正5年(1917)には古川麗華、鍋木清方、松岡映丘、平福百穂、田口掬汀と「金鈴社」を結成し、同11年まで活動、翌12年には文部省留学生としてフランスに2年間留学。これは、藤田家から資金援助を受けての渡仏。帰国後は、帝展・院展などで活躍し、終戦後は食糧事情の悪化等により昭和21年(1946年)から翌年にかけて藤田家に疎開、戦後も日展などに出品を続けたが、昭和32年に東京文京区の自宅において81歳で没。



草花図屏風 部分



紅梅図「大正期」



牡丹水牛図(双幅)「明治期」



四季の花(双幅)「大正期」



四季草花図屏風(二曲一雙)「昭和初期」



(右隻)



(左隻)

草花図屏風(六曲一雙)「大正期」



楽園(六曲一雙屏風)「大正期」

結城素明は、東山魁夷を東京美術学校(現東京芸術大学)で指導したことで知られています。素明と白河藤田家とは親戚同様の交友があったことから、藤田記念博物館には素明の日本画・洋画作品が多数収蔵されています。

今回の企画展では、素明作品の中でも「花鳥画」にスポットをあてて展示いたします。素明の花鳥画作品は、丹念な写生などにより描かれたものですが、江戸時代の琳派や四条円山派から影響を受けた作品や写実的な作品など、多様なスタイルによって描かれています。

なお、当館の展示は作品をガラス越しでなく直に鑑賞いただけます。どうぞこの機会にご鑑賞ください。

公益財団法人 藤田教育振興会
藤田記念博物館

〒961-0946 福島県白河市二番町46番地の1
TEL.0248-24-1780

貸しギャラリー

貸しギャラリーを行っています。利用の用途によって料金が異なりますので、詳しくはお問い合わせ下さい。



藤屋蔵のご案内

藤屋蔵は、かつての奥州街道と原方街道が交差する白河城下二番町で醸造業を営んでいた「藤屋」の店舗・住居・蔵座敷の建物の総称で、歴史まちづくり法に基づく「歴史的風致形成建造物」に指定されています。現在は博物館や飲食店などに活用され、建物に新たな息吹が吹き込まれています。



利用案内

- 開館時間 10時～16時
- 休館日 [常設展開催時] 毎週土曜日と日曜日
[企画展開催時] 月曜日と火曜日
年末年始(12月28日～1月6日)
※展示準備等で臨時に休館する場合もございます。
- 観覧料
[常設展開催時] 一般 …………… 300円
高校・大学生 …… 100円
幼児と小中学生は無料
[企画展開催時] 一般 …………… 500円
高校・大学生 …… 300円
幼児と小中学生は無料

ご案内図



《交通案内》

- ・ JR東北本線白河駅下車、徒歩10分
- ・ JR東北新幹線新白河駅下車、徒歩15分
- ・ 自動車の場合、東北自動車道白河I.C.もしくは白河中央I.C.より10分程度

公益財団法人 藤田教育振興会

藤田記念博物館

〒961-0946 福島県白河市二番町46-1(藤屋蔵内)

TEL.0248-24-1780 FAX.0248-22-3750

公益財団法人 藤田教育振興会

藤田記念博物館



藤田記念博物館とは

白河市の教育・文化の向上に寄与することを目的に設立された財団法人藤田教育振興会(現在は公益財団法人)は、その事業の一環として昭和42年(1967)に史跡名勝南湖公園内に藤田記念博物館を開館しました。昭和54年(1979)には博物館法に基づく登録博物館となり、白河藩主松平定信やその周辺の人物の和歌・漢詩・絵画作品、日本画家結城素明の作品などの展示を行ってまいりましたが、東日本大震災により建物が損傷し休館となっております。

令和3年4月、白河市二番町の旧藤田家敷地内の蔵2棟を活用して装いも新たに蔵の博物館(通称「藤屋蔵」)として再オープンいたしました。蔵は、旧奥州街道と原方街道が交差する角地に所在した醸造業を営む藤田家の敷地に明治41年(1908)に建築されたもので、蔵座敷は床の間と違い棚を備えた15畳と10畳の和室で構成され、もう一棟の蔵は倉庫として利用されていたものをギャラリー展示室に改修したものです。蔵2棟は隣接する旧店舗とともに「歴史まちづくり法」に基づく歴史的風致形成建造物に指定されています。



蔵座敷展示室



東山魁夷筆
「結城素明先生疎開之地」石碑

主な収蔵資料

日本画家 結城素明作品

結城素明(明治8年～昭和32年)は、東京美術学校日本画科を卒業し、平福百穂などと无声会や金鈴社などを結成し、官展を中心に活躍した日本画家です。東京芸術大学教授なども務められたが、白河の藤田家と生涯にわたって交流し、戦時疎開を含め度々同家に滞在しています。また、東山魁夷を指導・育成したことで知られています。



結城素明筆「四季の花」(双幅)



結城素明筆「楽園」(六曲一隻屏風、部分)

江戸絵画作品

江戸時代に京都を中心に活躍した伊藤若冲の「菊花図」をはじめ、谷文晁の高弟であった高久靄崖や立原杏所などの江戸絵画作品。

谷文晁など 白河ゆかりの絵画作品

松平定信に仕えた絵師谷文晁の作品をはじめ、画僧白雲や蒲生羅漢など白河ゆかりの絵師による絵画作品。



谷文晁筆
「驟雨図」



白雲筆
「夏樹重陰図」



蒲生羅漢筆
「釈迦十六善神図」



伊藤若冲筆
「菊花図」



同部分(筋目描)



高久靄崖筆
「雨窓煙靄」



立原杏所筆
「黄蜀葵」

松平定信関連作品

幕府老中として「寛政の改革」を断行した白河藩主松平定信の墨蹟や関連作品。



星野文良筆「南湖名勝図」(部分)



松平定信筆「和歌短冊」